

# 誰もが活躍できる居場所・出番のある地域づくり

平成30年度社会福祉振興助成事業シンポジウム  
「多様な連携のカタチ」～持続可能な福祉社会を目指して～



# 暮らしづくりネットワーク北芝とは・・・

## 活動地域・・・大阪府箕面市萱野地域



### <箕面市>

人口はおよそ13万人、大阪市内のベッドタウン。関西圏では、芦屋市と並び富裕層の多い地域として認知されている。その一方、経済的に安定してることでひきこもりが長期化していたり、経済的困窮層が声をあげられず学校や地域で見えづらくなっているなどの地域特性がある。

### <萱野地域>

126戸の公営団地、小中学校、幼・保育所が集中しているエリア。徒歩圏内に大型ショッピングモールがある。2020年には地下鉄の駅が延伸することが決まっており、土地の値段が上昇している。

# 暮らしづくりネットワーク北芝とは・・・

## ＜事業ビジョン＞

地域の課題を解決するための活動を起こそうとしている個人やグループの支援を行い、人と人、組織をつなぐネットワークとして機能することを目的として2001年に設立されました。

「誰もが安心して暮らせるまちをつくりたい」という地域の人たちの思いを共有し、知恵を出し合う「暮らしづくり」の協働活動を進めています。



# 事業化の背景

## ◆制度の狭間で孤立する若者たち

外からは見えづらい生きづらさを抱え、地域の中で孤立している。地域住民とのつながりをつくることで、若者たちが安心して暮らせる地域にしたい。

⇒社会的居場所「あおぞら」、当事者研究会、地域での会食

## ◆市内での若者支援の資源不足

若者を支える仕組みも団体もほとんどない。若者たちは困っていても相談できることすら知らない。

地域の課題は複合化していて、ひとつの機関・窓口だけで解決することが難しい。分野を横断して重なり(連携)を増やしていくことで狭間を埋める。

⇒若者支援施策のありかた研究会

# 28年度社会福祉振興助成事業 「生活困窮に陥った若者主体の地域づくり」

## ＜事業概要＞

生活困窮状態にあって生きづらさを抱える若者が力を発揮し、「社会的居場所あおぞら」を活用し、地域福祉拠点の定着を目指す事業

## ＜事業内容＞

- ・社会的居場所「あおぞら」の運営
- ・若者支援施策のありかた研究会（「見えにくい生きづらさ」学習会）
- ・当事者研究「ヒバ子の集い」
- ・地域のフードバンク構築プロジェクト「みんなの食卓プロジェクト」



# 連携のイメージ①

若者たちの声を発信！



生きづらさへの理解促進

近隣企業

仕事の発注  
(中間的就労)

就労



サポステ

ハローワーク

保健所

当事者研究会  
「ヒバ子の集い」

自己理解

相談

相談支援機関(生活困窮者自立支援事業)

生きづらさへの理解促進

地域住民

理解、受容

若者支援の施策あり方研究会

NPOなど民間団体

社会的居場所「あおぞら」

行政(福祉、教育、労働部局)

みんなの食卓P

学校(小・中・高・大)



# 連携のイメージ②

## ◆企業の巻き込み

・主に働く場としての企業との連携。

働く手前の「就労観醸成」や、仕事体験としての「中間的就労」、一般就労など。

・これまでに・・・

診療所、弁護士事務所のニュースレターのポスティング、  
近隣企業からの内職仕事(封入、包装、縫製、シール貼りなど)、  
アパレル会社との商品開発、行政のアルバイト・・・

・「社会貢献」だけでは企業とは継続できない。

⇒双方にとってメリットのある関係をどうつくるか。

ex 企業にとっての課題「人材不足」と

困窮者支援、若者支援分野でのよりそい型支援のノウハウ



近隣企業へ「働き方」について取材。  
取材内容を冊子に掲載。

# 連携のポイント

- ・そもそも「何のために」連携するのか？
  - ⇒ゴールや目標が共有できていないとひとりよがりになってしまう。
  - 自分たちがどこを目指しているのか、言語化することが求められる。
- ・お互いに「いつもはここまで」をちょっと超えれば狭間はなくなる。  
そのためにはまず「いつもはここまで」(組織の本来の役割と実態)を知ることから。
- ・文化、価値観、言語、判断基準・・・そもそも別の考え方を持っているという前提。  
「正論が通じない」「動いてくれない」その背景になにがあるのか？  
連携は「正しいことだから」だけではうまくいかない。
  - ⇒共通の「思い出」づくり。連携も「人と人」。やっぱり個別の関係性から始まる。
  - ⇒ときには戦略的に。「どの顔が」「なにを」「だれに」伝えるのか。
- ・「安心」と「わずらわしさ」はセットもん。「支える」「支えられる」の関係を超えて。
  - ⇒地域とは役割が入れかわりながら成り立つもの。
  - ⇒同じ地域に暮らす住民としての視点。目の前の課題が他人事になっていないか。
  - ⇒いま自分はどの顔でどの役割を果たそうとするのか？
  - ⇒地域での連携(ささえあい)、地域だからこそできない場合もある。